

## 福岡市NPOボランティア交流センター評価委員会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和3年10月21日（木）10:00～13:00
- 2 場 所 福岡市NPO・ボランティア交流センター セミナールーム
- 3 出席者 （出席委員3名）  
蓮見委員、千葉委員、島村委員
- 4 傍聴人 なし
- 5 議事（要旨）

### （1）開会

### （2）会議の公開・非公開について

評価委員会設置要綱に基づき、「評価基準に関すること」及び「指定管理者からの意見聴取」は公開、「評価の実施」については非公開とする。

### 【評価等】

### （3）評価基準について

【委 員】評価シートに対する意見なし。

### （4）指定管理者からの意見聴取

【委 員】コロナ下において利用人数等が制限される中、利用者や団体の施設に対するニーズや求めるものの変化等、何か感じるものはあるか。

【指定管理者】ここ近年、会議の参加者数が減少していたり、またコロナ下において、オンラインによる会議を利用したりと、みんなが一堂に会議に集まらなくてもいいだろうと集まり方が変わってきていると感じており、ニーズの変化はあると思う。この施設の使い方も自由に来て自由に話せる場所という風に変えていかなければ、閉鎖された空間で会議というのはこれからも減少していくと思う。一方で、オンライン会議を活用することで他県の方を簡単に招くことができ、ある意味距離が縮まったところもある。

【委 員】自己評価委員会では、市民公益活動の在り方やあすみのソフト面での在り方を議論されたとのことだが、実際にはどういった内容の話があったのか。

【指定管理者】登録しないと施設を使えないといったイメージが浸透してしまっているため、それを払拭し気軽に利用できることを打ち出していこうという話や、あすみんと登録団体がもっと協力して事業を実施し、あすみんと団体が一緒に盛り上がっていこうという話があった。災害ボランティアワークショップは登録団体と協力した事例である。また、営利・非営利の考え方をきちんと伝えていき、NPOで生計を立てて事業化することもあすみんが支援していかないと社会課題はなくならず、福岡で、九州でそれを担うことができるのはあすみんである。ボランティアを支援することに留まらず、企業とのコラボレーションや課題に応じて様々な団体を集める等、あすみんが主体でやっていくべきだという話があった。

【委 員】目指すところが同じ団体がそれぞれの知見を持ち合って活動することでより広く

浸透するのではないかと感じる事がこの1、2年で増えてきた。実際に団体同士をコーディネートする担い手がないとも感じている。自己評価委員会で出た話の通り、ソフト面でのソーシャルビジネスの底上げを目指していただきたい。

【指定管理者】NPOも代表者の高齢化により弱体化していったり、数名の小さな団体が増えていったりと、今後大きな課題に取り組むことが困難になっていく。だからこそ、あすみんがその繋ぎ役になったり、企業やボランティアなど様々な方との繋ぎ役になっていければと思う。

【委員】このセンターが今後担っていかなければならないことはNPO同士の連携だと思う。NPO法人の認証数は減ってきており、高齢化により休眠法人も増えてきている。中間支援組織が繋ぎ役として入ることで、熱意はあるもののまとめ役がない団体やどこかと繋がればまだ活動を続けたいと思っている団体の活性化になる。中間支援組織の一押しで同じ方向を向いている人たちが事業によっては一緒にやっていく等、市民活動が活性化していくと良い。

【委員】相談業務において組織内での共有や橋渡し等の工夫は何かしているのか。

【指定管理者】一回で終わらなくて良い、次に繋げるようにと言っている。対応には個人差が出てくると思うが、その内容をレポートにし職員全員で共有したり勉強したりと、チームビルドの仕組みをつくっている。

【委員】そのレポートは過去に遡って見ることは可能か。

【指定管理者】もちろん見ることができる。

【委員】「ハローソーシャル」において、実際に成立した件数は把握しているのか。

【指定管理者】団体と活動したい個人が直接やりとりするため、成立件数は分からない。

【委員】できれば把握して頂きたい。

【指定管理者】そうすると手続きが面倒になり申し込みにくくなるため悩んでいるところである。また、今は施設内掲示のみだがWEB上にあげる等、情報の掲載場所を増やすことで活動に参加したい人も増えていくと考える。

【委員】効果が分からないと事業が衰退していくことがあるため、把握することは大事だと思う。

【委員】あすみんは全国のNPO支援センターの中でどういった役割を果たし、どういった方向性を目指していこうと考えているのか。

【指定管理者】あすみんは、市民活動家に育っていくための支援をするだけでなく、その先の企業連携やコラボレーションを生み出す場は、全国にもそういったところはないので、我々が担っていくべき役割だと思っている。

【委員】（資料1 P46）相談のときの事業総括に「個別対応を希望される個人や団体が増えてきている傾向」と書かれてあるがどういう背景があるのか。

【指定管理者】団体の規模が細やかになってきており、相談も個別対応の方はより個別化しているように感じる。

【委員】頼られるということは、あすみんに行けば相談を聞いてもらえると思って頂けており、あすみんの存在感が上がっていると言える。

**(5) 評価の実施**

非公開

**(6) 閉会**

評価委員会での意見を踏まえ、市が最終評価を決定する。評価結果については、指定管理者へ通知し、市ホームページで公表することとする。